

一五八六年木版日本古地圖 (圖版第六版解説)

藤田元春

本圖は倫敦ゴールド・シユミツド社の古書販賣目錄に出たもので、知友壽學文章氏から予に見せられたものであるが、テレキの研究で一五九五年版のオルテリウスの日本圖が西洋で最も早く出版された日本圖であるといふことになつてゐるから、この圖はそれよりも十年早い古圖であるといふのである。いかにも珍らしい地圖であるが、しかしこの圖の形は拙著日本地理學史に紹介した一五七三年版のオルテリウス東西圖に既に出てゐる形式であつて、この時代の日本はこの程度で西洋に紹介されたものである。見らるゝ通り三河以東を缺如してゐる日本で行基圖よりも古い、この形は大清一統輿圖の總圖に出てゐる日本である。又は廣輿圖の東南海

夷圖に出てゐる日本で、日本の東の海に *Insule Meacenses* とある。他のオルテリウスに *Insule de Meaco* とあるものでミヤコの島々といふことは、伊勢海、三河灣などのつもりである。本圖はこの海に接して直ちに *Nobunaga. R.* (信長のレギオ) 信長の國が接してゐる。故にこの海は伊勢海である。

今この圖はさうした三河以西九州を一塊として *Fonsa* (土佐即ち四國) のみを別に離れた島にしてゐる、これも大清一統輿圖の總圖の日本に類する。天文十八年フランシスコ・ザビエルが天主教を傳へて後信長の時代に天主教は西日本に分布した。本圖はその時に存在した十二の教會をしるしてゐる。曰く

Funaiensis 豊後府内(大友氏城下)

Yuenis 山布(豊後)

Arimensis 有馬(肥前)

Nagsachensis 長崎(同)

Omransis 大村(同)

Amacusana 天草(肥後)

Usouensis 臼杵(豊後)

Noquensis 延岡(日向)

Anzuchiamensis 安土(近江)

Tacasquensis 高槻(攝津)

即ちこの地圖はかうした教會地をしるし、有馬と安土には二十六人の若い貴族がゐるとのべてあるのも面白う。

行基圖以前のものだから國名は確實ではないが Meaco 京都 Osagua 大阪 Sacatum 堺等の地名が出てゐる近畿の中で Coya 高野と Negrn 根來の二つがあるのも面白う。これは Paolo Furlani 1574年の地圖にも出てゐる地名であるが、恐らく天主教から見た異教徒の中心と見たためであるであらう。根來に Negrn Academ と註記してゐるのは殊更に興味をひく、九州地

方では Facata 博多 Funay 府内 Ximabara 島原等の地名や肥後筑後肥前豊後等の國名がよめる、地圖の形のまづいのは別にして我等は本圖から天主教の分布を學びうらと思ふので有力な史料としてこゝにこれを紹介するのである。

新著紹介

○昭和十二年の大阪市政 大阪市役所

本邦經濟の中心としての大坂、生産と集散との都市である大阪、貨物の出入年四千七百萬噸、七十五億圓に達する大阪の事情をしるに簡単なパンフレットとして市役所の出した本冊のごときはよい企であると思ふ。百貨店の商品券だけでも一年に約九百萬圓といふが、貿易では輸出年十二億圓、六百五十二萬噸に達し、入超三百七萬噸即ち原料品で重いことを語り、價格で七千三百萬圓の出超は製産品が高くなつてゐることを語り、輸出で注目すべきは綿織物二億六千萬圓を主とし綿糸、毛糸、毛織物、人絹、人絹織物を加算して三億五千萬圓となるから輸出の五六％は繊維工業地であることを語るのである、其他金屬工業、機械工業、化學工業、紡績工業等いづれも全國第一をしめる、かくて大阪市はいろ／＼の方面で改善されてゆくのであるが尿管が一日間に一萬六千石も排出されるので、從來の例をやめて、十二年度に八十二萬五千